しもぎょう としょかんだより 2021 なつ

3年生
4年生

『大注目!写真とイラストでわかる大正時代をのぞいてみよう』

『大正時代をのぞいてみよう』編集委員会／編著

今から約１００年前，大正という時代がありました。その時代の子どもたちも，チョコレートや，キャラメルを食べたりカルピスを飲んでいました。休みの日はデパートへでかけたり，カフェでお茶を飲んだりしていました。劇場や映画館がたくさんつくられるようになったのも，この時代です。この頃の映画には音がありませんでした。人々のくらしは豊かになっていきますが，関東大震災が起こったり，第一次世界大戦が始まったり，世界中でスペイン風邪が大流行したりと，激動の時代でもありました。今と似ているようで，違う大正時代をのぞいてみてください。

『ざんねんないきもの事典おもしろい進化のふしぎ　ますます』

今泉忠明／監修　下間文絵・森永ピザ・赤澤英子／絵　有沢重雄／［ほか］文　高橋書店

いきものって，進化したからこそ，ものすごい部分があります。でも進化したからこそ，ざんねんな部分もあるのです。たとえば，そこまでしなくてもよいのに進化したために，だれにもゆずれない「こだわり」をもち，それがざんねんなことになっている「クチブトゾウムシ」。体をラメのようにキラキラした赤いビーズで着かざっています。でもこのビーズ，実はダニなのです。そしてダニに養分をすいとられています。なぜそこまでして着かざるのでしょう。ページをめくるたびに笑いがおこる，ざんねんないきものに，ぜひ，ふれてみてください。

『そのときがくるくる』

すずきみえ／作　くすはら順子／絵　文研出版社

小学一年生のたくまくんは，学校が大きき。勉強もまあまあすき。給食の時間はとくにすき。でも，今日はちがう。だって給食のこんだてに大きらいな，なすがあるから。がんばって食べようとしたけれど，やっぱり無理だった。夏休みがやってきた。たくまくんは一週間おじいちゃんとおばあちゃんの家に，ひとりでおとまりすることになった。つぎの日の朝，畑に行きたくさん野菜ができているのを見た。もちろん，なすも。とれた野菜をおばあちゃんが料理してくれた。なすをおさらによそおうとしたけれど，やっぱり無理。おじいちゃんは笑いながら，「無理をしなくてもいい。そのうちきっとそのときがくるから。」といった。
なすを食べられるそのときは，いつくるのでしょう。

『ミシンなしでかんたん!季節のこども手芸　夏』

C・R・K design／著　理論社

モールでつくる動物型のえんぴつキャップ，麻ひもでつくる空きびんデコレーションなど，ミシンなしでつくれる手芸の夏バージョン。型紙がついてるので，ぜひちょうせんしてくださいね。

『へんてこたいそう』

新井洋行／作・絵　小峰書店

トイレのマーク。いつもじーっとしているから，体を動かしたい！
あらあら，いっちに，いっちにと体を動かしはじめた。
ページをめくると，町でよくみかけるマークがつぎつぎに体を動かしている。歩く人がわたる横断歩道や，“くまがとびだす危けん”を知らせるマークなど，へんてこたいそうをやってすっきり。よく見かけるマークが楽しく動き，すっきりしたらもとのかたちにもどっていく。読んでたのしい絵本です。この本でマークを知るきっかけになればいいですね。

『カメくんとイモリくん　小雨ぼっこ』

いけだけい/作　高畠純/絵　偕成社

<オオサンショウウオのさわ>に，カメくんとイモリくんが住んでいました。だいのなかよしのおとなりさんどうしでした。でも，ある日とつぜんの大雨で，イモリくんの家は流されてしまい，<ひきがえる池>に引っ越してしまいました。ある夜カメくんは，イモリくんの家まで行くことにしました。つぎの朝，カメくんはバス停にむかって歩きながら，家のことが気になってもどったり，道に落ちているものが気になったりで，とうとうバスにのれませんでした。つぎの日の朝，げんかんのドアをたたく音がしました。ドアを開けるとそこには…。

『すてきなひとりぼっち』

なかがわちひろ／作　のら書店

一平が教室で絵を書いていると，まわりから「すげー」「うまいじゃん」と言われた。嬉しくて夢中で絵を書き，出来あがった頃には誰もまわりにいない。こういうひとりぼっちには慣れている。ある雨の日，学校から帰る途中，ころんでひざをすりむいた。家に帰るとおかあさんは，買いものに出かけていていない。

外で待っているうちに，「ぼくは，この世にひとりぼっち」と思ってしまう。おもいきっておかあさんをむかえに町へでると，いろんな出会いや出来ごとがあった。自分のことを「ひとりぼっち」だと思っていた一平だったけれど…。

『神さまの通り道』 村上しいこ／作　柴田ゆう／絵　偕成社

きょうから願太くんは，うら庭に新しく建てた部屋にうつることになった。窓のむこうに草むらがある。願太くんの部屋を建てても，まだ土地が残っている。そこは草が伸びほうだいなので，お隣さんから雑草をなんとかしてと言われている。「事情があってできないんです。」とお父さんはあやまっている。なんとそこは，神さまの通る道。だからお父さんのひいおじいちゃんが，ずっとそのままにしてきた。夜になって願太くんは，天井の近くにぷかぷか雲が浮かんでいるのに気づいた。その雲の上には小さなおじいさんが横たわっていた。さあ，このおじいさんはだれでしょう。

『みちとなつ』

杉田比呂美／さく　福音館書店

町のマンションに住んでいるのが，みち。うみべの町に住んでいるのが，なつ。ふたりはまだおたがいのことを知りません。夏やすみがやってきて，みちはおじいちゃんの家ですごすことになりました。そして，小さなきっかけでふたりはなかよくなるのです。

図書館で すてきな本に であえると いいね！

『海洋ごみ問題について知ろう』 中嶋亮太／監修　教育画劇

世界中の海が，人間の捨てたごみでよごされています。ごみで一番多いのが，ペットボトルや食べものの袋やプラスチックのごみです。海に来て捨てられたものだけではなく，別の場所から海に流れついたものもたくさんあります。生きものたちは海のなかをただようプラスチックをみて，食べものとまちがえることもあり，体のなかにどんどんそれがたまっていくと死んでしまうこともあります。この本を読んで，海洋ごみとどう向きあえばよいか考えてみませんか。

『しげちゃんのはつこい』

室井滋／作　長谷川義史／絵　金の星社

しげちゃんは，小学三年生になりました。新学期がはじまり，クラスのみんなの顔と名まえをおぼえたころ，サエちゃんという男のこが転校してきました。サエちゃんは，お父さんの仕事で大阪からやってきました。クラスの男のこたちは，サエちゃんの大阪弁をおもしろがり，いじめてよろこんでいました。サエちゃんはいじめられても，おもしろおかしくしていました。ある日，サエちゃんが学校を休みました。しげちゃんが給食をとどけに家にいくと…。

下京図書館

〈場所〉

下京区の新町通と松原通が交わるところを南に少し行ってね。

修徳公園の北側にあります！

〈開館時間〉

月・水～金曜日

午前９時半～午後７時（しばらくの間）

土・日曜日・祝日

午前９時半～午後５時

（火曜日はおやすみ！）